

のです。ライフでもワークでも急に見直しを迫られるとやり方がわからなくて潰れてしまいます。ライフでチャレンジする前にワークでチャレンジし、業務改善を行っておくべきだと思います。

日本の職場は本当に無駄が多いのですが、ワーク・ライフ・バランスを進めるための業務改善の考え方としては、次のようになります。

- ◎ 上司への過剰なサービス、無駄な仕事をやめる
- ◎ 会議を変える
- ◎ 資料を削減する
- ◎ この会議はいくらか？
この資料はいくらか？
など時間単価コストを考える
- ◎ 「重要度」と「緊急度」で整理する
- ◎ 議事録のひな形(標準型)を作る
- ◎ 外注して、自分がやりきれない作業を補う
- ◎ 「ながら作業」で他の作業と一緒にを行う

これらを「や・か・ま・し・い」の手法で考えていきます。

い し ま か や
… やめる業務はないか
… 簡単にできないか
… 真似できないか
… してもらえないか
… 一緒にできないか

この5軸で業務を見直します。目的を明確にし、それがなくても本来の目的を達成できる無駄な部分についてはカットしていきます。

とにかくメリハリのある働き方で徹底的に業務を効率化し、定時までに成果を挙げる働き方にしていかなければ



なりません。質の高い生活は、質の高い仕事につながります。メリハリのある仕事は、生活の余裕につながります。ライフのキャリアはワークのキャリアに結びつき、相乗効果が生まれます。

ワーク・ライフ・バランスというと、余裕のある企業やゆとりのある人が取り組むもの、また、大企業の方が取り組みやすいといった誤解がありますが、私は違うと思っています。

私が関わった企業の半分以上は中小企業です。業務改善については、中小企業の方が積極的に取り組んでいるというのが私の見解です。独自にすばらしい取り組みをしている企業もあり、私自身とても勉強させてもらっています。

業務改善したことによる経営面でのメリットが出やすいため、中小企業ほど積極的に取り組んでいるという面もあるでしょう。例えば、社員80人の職場で、一日3分の時間外業務を減らしたら、年間で200万円の人件費削減効果があります。30分減らしたら200万円もの削減になるのです。

ビジネスチャンスは ライフの中に隠れている

私が勤めた最初の職場はワーク・ラ

イフ・アン・バランスで、長時間労働の極みのような職場でした。入社2年目の頃、ワーク・ライフ・バランスに興味を持ったのですが、その頃はパブルの余韻の残る時期でもあって、このテーマの研究意義について上司の理解は得られず、仕事として研究することができませんでした。そのため、業務後や余暇に論文を読んだり、ヒアリングをしたりしてきました。そう考えると20数年の研究期間のうち10数年は趣味のようなものでした。そうやって職場以外にネットワークを張り、アンテナに引っかかったことを自分なりに追求したことが、自分のキャリアに結びつきました。今、ワーク・ライフ・バランスのニーズは増えており、会社にとっての新規ビジネスとなつていきます。

情報は職場ではなく現場にあります。社員自らが業務後や職場以外で得た情報などは自分のキャリアに結びつき、会社にとつても新規商品、ビジネスにつながります。今はどこの会社もやらなければならない業務は山積みですが、中長期的に企業が成長したいと思つたら、「経営戦略」と考えて社員に多様な経験を積ませるようにした方がいいと思います。